

27年10月分 製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 1

1. 調査実施期間 平成27年 10月1日～ 27年10月10日

2. 調査実施方法

全国の国産材製材工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
10月分の回答企業数は15社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2

したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

ア. 国産材

(1) 製材用原木荷動き動向 Weight. D. I.

品目		27/10月	11月	12月
入荷動向	スギ	22.2	33.3	22.2
	ヒノキ	△ 6.3	18.8	18.8
	カラマツ	0.0	0.0	0.0
	トドマツ	0.0	0.0	0.0
消費動向	スギ	16.7	16.7	16.7
	ヒノキ	0.0	6.3	6.3
	カラマツ	0.0	0.0	0.0
	トドマツ	25.0	0.0	0.0
在庫動向	スギ	△ 5.6	11.1	11.1
	ヒノキ	△ 21.4	△ 7.1	7.1
	カラマツ	0.0	0.0	0.0
	トドマツ	0.0	0.0	0.0

・スギ原木の入荷は3ヵ月連続して増加。ヒノキは10月の減少が、11月、12月は増加。カラマツ及びトドマツは3ヵ月連続して横ばい。

・スギ原木の消費は3ヵ月連続して増加。ヒノキは10月の横ばいが、11月、12月はやや増加。カラマツは3ヵ月連続して横ばい。トドマツは10月の増加が、11月、12月は横ばい。

・スギ原木の在庫は10月のやや減少から、11月、12月はやや増加。ヒノキは10月、11月の減少が、12月は横ばい。カラマツ及びトドマツは3ヵ月連続して横ばい。

(2) 製材原木価格動向 Weight. D. I.

品目	27/10月	11月	12月
スギ	25.0	11.1	16.7
ヒノキ	43.8	25.0	18.8
カラマツ	△ 50.0	0.0	0.0
トドマツ	0.0	0.0	0.0

・スギ及びヒノキ原木価格は強含み。

・カラマツは10月の弱含みが、11月、12月は横ばい。

・トドマツは3ヵ月連続して横ばい。

モニターからのコメント

’(原木荷動き)

- ・受注量の減少による生産コストアップ分を調整するため、カラマツの原木を300円値下げした。工場は残業なしの定時稼働。(北海道)。
- ・トドマツは順調に入荷も、民間からの入材少ない。工場順調に稼働、4,000m³/月消費。入材と生産は今の所バランスが取れている(北海道)。
- ・市場への出材量は変わらず、翌年、在庫の積む増しをするため翌月より仕入は少しづつ増加する見込み。製材総量は変えず、稼働日並の生産。スギ、ヒノキ共に翌月より在庫積み増しのためやや増加の予定(関西)。
- ・ヒノキ入荷は、10月後半から11月にかけて増える見込み。消費は10月～11月はほぼ変わらず、12月は少し減らす見込み。在庫は10月～11月は変わらず、12月は少し増やしたい(中国)。
- ・ヒノキ丸太の入荷少ない。ヒノキを挽きたいが丸太がない(中国)。
- ・スギ原木は、天候次第の部分もあるが、多量でもある程度は見込めるのでは。消費はバイオマス事業次第(九州)。
- ・ヒノキは、10月、11月天候回復で出材はやや増加。生産、在庫は変わらず(九州)。
- ・スギは時期も良くなり、特に10月～11月は記念市が続くため、入荷はやや増加傾向になる見通し。消費の増加は、注文状況にもよるが生産は落とさない(九州)。

(原木価格)

- ・カラマツ原木は300円の値下げ（北海道）。
- ・トドマツ丸太、変わる見込みなし（北海道）。
- ・当月、価格改定が行われたため、翌月からは多少下がる部分があるが、当月価格を維持（関西）。
- ・ヒノキは10月はスライドもしくはちょい下げ、11月は少し下がる。12月は天候良ければ少し下がる（中国）。
- ・ヒノキ丸太は少ないので上がるのはやむを得ないが、スギ製品の荷動きが悪いのでスギ丸太の上昇は困る（中国）。
- ・スギは記念市等もあり、多量のため一時的には相場は下がると思うが、製品の需要がつけば盛り返すのでは（中国）。
- ・ヒノキは10月の製品の動きが少しよくなった。価格もやや上昇（九州）。
- ・スギは丸太の供給量と製品需要次第で変動（九州）。

27年10月分 製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 2

(3) 製材品荷動き動向 Weight. D. I.

品目		27/10月	11月	12月
生産動向	スギ	22.2	33.3	22.2
	ヒノキ	△ 7.1	7.1	0.0
	カラマツ	0.0	0.0	0.0
	トドマツ	0.0	25.0	0.0
出荷動向	スギ	27.8	33.3	22.2
	ヒノキ	12.5	12.5	6.3
	カラマツ	0.0	0.0	0.0
	トドマツ	0.0	25.0	0.0
在庫動向	スギ	0.0	0.0	6.3
	ヒノキ	△ 42.9	△ 35.7	△ 21.4
	カラマツ	0.0	0.0	0.0
	トドマツ	0.0	0.0	0.0

・スギ製材品の生産は3ヵ月連続して増加。ヒノキは10月のやや減少が、11月はやや増加し、12月は横ばい。カラマツは3ヵ月連続して横ばい。トドマツは10月が横ばい、11月は増加、12月は横ばい。

・スギ及びヒノキ製材品の出荷は3ヵ月連続して増加。カラマツは3ヵ月連続して横ばい。トドマツは10月が横ばい、11月は増加、12月は横ばい。

・スギ製材品の在庫は概してやや増加。ヒノキは3ヵ月連続して減少。カラマツ及びトドマツは3ヵ月連続して横ばい。

(4) 製材品出荷価格動向 Weight. D. I.

品目		27/10月	11月	12月
スギ	柱角 KD10.5×3	11.1	16.7	5.6
	柱角 KD12×3	△ 11.1	△ 5.6	5.6
	通し柱 12×6	0.0	0.0	0.0
	桁角	7.1	7.1	7.1
	母屋角	14.3	14.3	14.3
	タルキ	14.3	0.0	0.0
	間柱	18.8	12.5	14.3
	ヌキ	7.1	7.1	0.0
	平割	7.1	0.0	7.1
	ラミナ	12.5	0.0	0.0
ヒノキ	柱角 KD10.5×3	21.4	21.4	21.4
	柱角 KD12×3	7.1	14.3	7.1
	土台角 10.5×4	21.4	28.6	21.4
	土台角 12×4	0.0	0.0	△ 7.1
	通し柱 12×6	0.0	0.0	0.0
	ラミナ	12.5	0.0	0.0
カラマツ土台角10.5×4	—	—	—	
〃 梱包仕組み板	0.0	0.0	0.0	
〃 ラミナ	△ 50.0	0.0	0.0	
トドマツサンギ	0.0	0.0	0.0	

・スギ柱角10.5×3、母屋角及び間柱は強含みで推移。スギ柱角12.5×3は10月、11月のやや弱含みが12月はやや強含み。通し柱、タルキ、ヌキ、平割及びラミナは総じて保合。桁角は10月の横ばいが、11月、12月はやや強保合。

・ヒノキ柱角及び土台角10.5×4は総じて強含みで推移。土台角12×4、通し柱及びラミナは総じて保合で推移。

・カラマツ梱包仕組み板は3ヵ月連続して横ばい。ラミナは10月の弱含みが11月、12月は横ばい。

・トドマツサンギは3ヵ月連続して横ばい。

モニターからのコメント

(製材品荷動)

- ・計画で残業を見込んでいたが、定時生産で間にあう程度の仕事量になった。販売は8月から概ね横ばいで推移しているが、10月からは産業資材用途で回復基調が出て来ているように感じる。継続性についてはこれからの判断となる(北海道)。
- ・トドマツの生産、出荷は、中々秋需とまでは行かない、現状が良いところか?約1週間の在庫で推移(北海道)。
- ・通常生産にて推移。出荷は10月中は堅調、昨年同月並の水準。出荷は順調(関西)。
- ・ヒノキ製材品の生産、出荷は10月～11月は変わらない、12月は少し減る見込み、在庫は10月～11月は変わらず、12月は少し減らす(中国)。
- ・丸太在庫少なく、生産に支障が出る(特にヒノキ)。スギは注文少ないようである。ヒノキは問い合わせがあるが応じていない。スギ3m、120×120の在庫が過多。ヒノキKD材の在庫がないので納期回答に苦慮している(中国)。
- ・スギ製品は、少々くすぶっている様な状況だが、来るべき需要に備え、生産、出荷にはある程度準備が必要なのは(九州)。
- ・ヒノキ生産は変わらず、販売はやや増加、在庫はやや減少(九州)。
- ・出荷少し良くなった。価格転嫁できず。オーバーサプライ(九州)。

(製材品出荷価格動向)

- ・カラマツラミナは300円の値下げ（北海道）。
- ・トドマツサンギは、丸太価格次第だが下がる要素なし（北海道）。
- ・スギ、ヒノキ共に原木高を受けて強保合の雰囲気。ヒノキは今までが安過ぎる印象（関西）。
- ・ヒノキは、価格を変動させない（中国）。
- ・スギは、関東の製品の荷動き悪いので、西日本が価格上昇を唱えても受入れてもらえない。西日本は丸太が高い。ヒノキは、受注を控えめにしている（一部断っている）にも係わらず、単価の上昇に対して顧客は消極的である（中国）。
- ・ヒノキ価格がやや上昇、原木と製品の値上がりバランスとれず（九州）。
- ・スギ柱角は需要は出て来たが、価格は上がらず。間柱・小割は需要増で価格も上げ方向。その他は需要、価格とも横ばい（九州）。

27年10月分 製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 3

イ. 外材

(1) 製材用原木の荷動き動向 Weight. D. I.

品目		27/10月	11月	12月
仕入動向	米マツ丸太	50.0	50.0	△ 50.0
	NZラジアータ	0.0	0.0	0.0
	北洋エゾマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ原板	—	—	—
消費動向	米マツ丸太	50.0	0.0	0.0
	NZラジアータ	0.0	0.0	0.0
	北洋エゾマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ原板	—	—	—
在庫動向	米マツ丸太	0.0	50.0	△ 50.0
	NZラジアータ	0.0	0.0	0.0
	北洋エゾマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ原板	—	—	—

・米マツ丸太の仕入は10月、11月の増加が、12月は減少。NZラジアータ丸太は3ヵ月連続して横ばい。

・米マツ丸太の消費は10月の増加が、11月、12月は横ばい。NZラジアータ丸太は3ヵ月連続して横ばい。

・米マツ丸太の在庫は10月の横ばい、11月の増加が、12月は減少。NZラジアータ丸太は3ヵ月連続して横ばい。

(2) 製材用原木等購入価格動向 Weight. D. I.

品目	27/10月	11月	12月
米マツ丸太	△ 50.0	0.0	0.0
NZラジアータ丸太	0.0	0.0	0.0
北洋エゾマツ丸太	—	—	—
北洋アカマツ丸太	—	—	—
北洋アカマツ原板	—	—	—

・米マツ丸太の価格は10月の弱含みが、11月、12月は横ばい。

・NZラジアータ丸太は3ヵ月連続して横ばい。

モニターからのコメント

(原木荷動)

・NZラジアータ丸太は秋需期待も変化なし、輸出物件数量増加せず。

(原木価格動向)

・NZラジアータ丸太は秋需期待も変化なし。

27年10月分

製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 4

(3) 製材品の荷動き動向 Weight. D. I.

品目		27/10月	11月	12月
生産動向	米マツ製材品	50.0	0.0	0.0
	NZラジアータ製材品	0.0	0.0	0.0
	北洋エゾマツ製材品	—	—	—
	北洋アカマツ製材品	—	—	—
出荷動向	米マツ製材品	50.0	0.0	△ 50.0
	NZラジアータ製材品	0.0	0.0	0.0
	北洋エゾマツ製材品	—	—	—
	北洋アカマツ製材品	—	—	—
在庫動向	米マツ製材品	50.0	50.0	0.0
	NZラジアータ製材品	0.0	0.0	0.0
	北洋エゾマツ製材品	—	—	—
	北洋アカマツ製材品	—	—	—

・米マツ製材品の生産は10月の増加が、11月、12月は横ばい。NZラジアータ製材品は3ヵ月連続して横ばい。

・米マツ製材品の出荷は10月の増加が、11月は横ばい、12月は減少。NZラジアータ製材品は3ヵ月連続して横ばい。

・米マツ製材品の在庫は10月、11月の増加が、12月は横ばい。NZラジアータ製材品は3ヵ月連続して横ばい。

(4) 製材品の出荷価格動向 Weight. D. I.

品目		27/10月	11月	12月
米マツ平角		0.0	0.0	50.0
米マツ正角		50.0	0.0	0.0
米マツ小割		50.0	0.0	50.0
北洋エゾマツタルキ		—	—	—
北洋アカマツタルキ		—	—	—
NZ梱包材(割板)		0.0	△ 50.0	△ 50.0
NZ梱包材(割角)		0.0	△ 50.0	△ 50.0
NZ土木用材		0.0	0.0	0.0
その他		—	—	—

・米マツ平角、正角及び小割の出荷価格は10月は総じて強含み、11月は横ばい、12月は総じて強含み。

・NZ梱包材(割板、割角共)は10月の横ばいが、11月、12月は弱含み。NZ土木用材は3ヵ月連続して横ばい。

モニターからのコメント

(製材品荷動き)

・NZラジアータ製材品は秋需期待も変化なし。

(製材品出荷価格動向)

・NZラジアータ製材品は秋需期待も変化なし。